

C-1 民家の住居気象学的研究（第1報）  
大和高原月瀬村住宅における住居気象  
と成人病との関係について

奈良女子大 ○飯道せつ子  
梁瀬 度子  
花岡 利昌

1. 大和高原東北縁部にある月瀬村は低地に比べ、寒冷であるにもかかわらず、その住宅は近畿地方特有のいわゆる田の字型平面を有し、その気象的条件に対し特別の意が払われているということがない。他方高血圧を中心とする成人病の罹患状況が住生活様式に、ある関係があるのではなかろうかと思われる事実が観察されている。それでこの地における住宅の室内気温について、連続的な観測を行なうとともに、そこにおける生活条件との関連において成人病罹患状況について考察してみた。

2. 対象地域は内陸性気候で、比較的冷涼、日照時間が少なく、雲霧が多いという気候的特性を有している。ほとんどが農家で、高血圧症患者が多い。実験対象家屋は構造および材質的に条件の異なった2戸を選び、本年

2月下旬それぞれ約1週間ずつ多点式自動温度記録計により各室温および外気温を同時記録し、外気温を基準にして室温変動率を算出した。他方両家の成人病罹患状況は家族よりの聞き取り調査、担当保健所保健婦および村立診療所医師の所見によって判断した。

3. 自記記録曲線より算出した室温変動率と、室温と外気温との較差の積をもって室恒温率と称することになっているが、この値を比較検討することによって、住居気象学的室温条件の良否を判定し、成人病特に高血圧症に住居気象学的条件がかなり重要な要因となっているものと考えられるので、その結果を報告する。